

デザインアワードでテーマ賞

板金加工のブランド提案

葵製作所

(株)葵製作所(東京都八王子市、長谷川薫社長)は2月8日の「2021年度東京ビジネスデザインアワード」で、プロダクトデザイナーの稲葉太郎氏(やまのデザイン)との協力による「板金加工のサンプル帳として機能するプロダクトブランドの提案」がテーマ賞を受賞した。

同社は1971年創業(両等)・ケース類の溶接・で、産業用設備機器や測定機器(光学機器)等の大型筐体・架台フレームや各種シャシ(特殊車

同アワードは東京都内

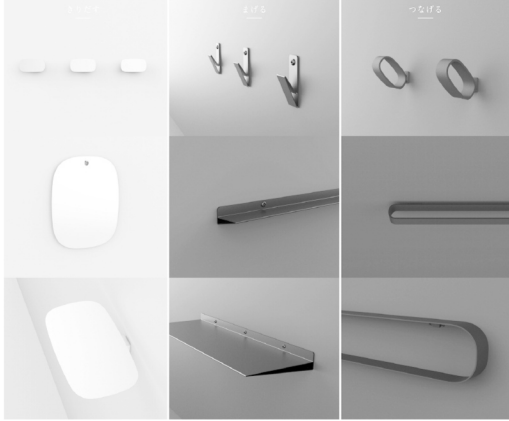
のものづくり中小企業とデザイナーの協働を目的に、企業参加型のデザイン・事業提案コンペティ

ション。審査の流れは昨年4月から「テーマ募集」「テーマ審査」「テーマ発表+提案募集」「提案一次・二次審査」を経て2月8日の最終審査においてテーマ賞の中から最優秀賞・優秀賞を決定する流れとなっている。

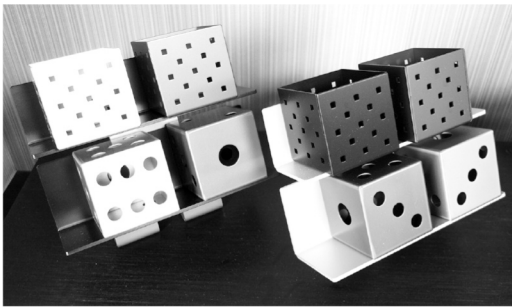
本紙関連としては2015年度と同アワードで東栄ハネ(株)(東京都中央区、我妻慶信社長)がプロダクトデザイナーの乙部博則氏(Otobe Daisuke)との協力で開発した

「パネの特性を活かしたインテリア照明」がテーマ賞を受賞している。同社は新型コロナウイルス拡大に伴い通常業務以外にも新たな取り組みとして、また社内加工技術向上も目的にゴミ箱・傘立て・デスク周りの事務用品を自社で製作してみたところ予想以上の出来となった事をきっかけに応募し、昨年の「第92回東京インターナショナルギフトショー秋(10月13〜15日、東京ビッグサイト)」に初出展して好評を得た為、今年も「第93回東京インターナショナルギフトショー春(2月8〜10日、同)」に連続

「板金加工のサンプル帳として機能するプロダクトブランドの提案」は、同社の企業テーマ「大小多彩に加工できる高度な『メタル加工技術』」に対し稲葉氏がデザイン提案した。同社は①手のひらサイズの小さなモノから、乗用車程の大きな構造物まで多様に加工、②切る・貼る・曲げる・丸める・穴を開ける等の高度な技術で、多種多様な金属に加工、③金属の良さに原点帰した、SDGs時代に合わせたメリットによるライフィノベーションをアピールポイントにして、審査委員からは「メタル加工技術と小ロット多品種の生産に強み。高さ2000mm、幅1200mm程度の大きさまで対応が可能との事で、あえて中々大型の製品や、サービスと絡めた提案も面白い。自社での製品開発にも意欲的な勢いのある会社である」として評価され受賞に至った。



板金加工のサンプル帳として機能するプロダクトブランドの提案



金属加工の一例



長谷川社長

「パネの特性を活かしたインテリア照明」がテーマ賞を受賞している。同社は新型コロナウイルス

拡大に伴い通常業務以外にも新たな取り組みとして、また社内加工技術向上も目的にゴミ箱・傘立て・デスク周りの事務用品を自社で製作してみたところ予想以上の出来となった事をきっかけに

「メタル加工技術」にに対し稲葉氏がデザイン提案した。同社は①手のひらサイズの小さなモノから、乗用車程の大きな構造物まで多様に加工、②切る・貼る・曲げる・丸める・穴を開ける等の高度な技術で、多種多様な金属に加工、③金属の良さに原点帰した、SDGs時代に合わせたメリットによるライフィノベーションをアピールポイントにして、審査委員からは「メタル加工技術と小ロット多品種の生産に強み。高さ2000mm、幅1200mm程度の大きさまで対応が可能との事で、あえて中々大型の製品や、サービスと絡めた提案も面白い。自社での製品開発にも意欲的な勢いのある会社である」として評価され受賞に至った。

今回の応募について長谷川社長は「製造業なので性能・効率を第一に考えがちだが、工業製品として技術的に優れている一般消費者にとって良い製品とは限らないと分かる良い機会であり、デザイナーによる付加価値の重要性を学べる機会となった」と話している。